

住民主体で福祉のまちづくりを推進する情報交流紙です

よつ葉のクローバー KIKUSUI

No.36 2010.8.5

菊水福祉のまち推進センター運営委員会
札幌市白石区菊水6条4丁目3-10
電話 011-887-7006 FAX011-887-7006
URL <http://kikusui-net.jp>



福まち通信



白鳥の舞

北区百合が原公園
ボークシャ展にて

子育て支援NW会議開催

平成22年度白石区菊水地区
子育て支援推進ネットワーク
会議が、7月9日、白石区健

康・子ども課主催により上白石小学校で開催されました。

会議には、菊水地区の民生委員・児童委員協議会、
連合町内会、区・地区社会福祉協議会、福祉のまち推
進センター、地域子育てサロン関係者、児童会館、保
育園、幼稚園、小学校、まちづくりセンターなどから
多くの関係者が出席し、それぞれの活動状況や地域と
してどのように取り組んでいくべきかについて活発
な意見交換がなされました。

特に、菊水地区に3か所ある子育てサロン（ぷりん





ぷりん、どんぐりころころ、ペンギンクラブ) は子育て中の親にとって貴重な情報交換・交流の場となっており、「地域や各関係機関はサロンのPRはもちろんのこと、気軽に参加できるということをしかりと教えてあげるべきではないか」「人材の確保・育成については行政と地域が一体となって取り組んでいく必要があるのではないか」など様々な意見が出されました。

福まちの細野運

営委員長からは、「地域としてしっかりと連携を取りながら主体的に活動を進めていく必要がある」と話され、地域全体で取り組んでいくことの大切さを確認しました。

(白石区社会福祉協議会 武山職員)



しらぎく荘夏まつり

7月10日(土)菊水5条2丁目の西町集会所において、第2回「しらぎく荘夏まつり」



が行われました。

このまつりは、施設の地域交流と関係者の親睦を目的として昨年から行われています。

生憎の雨模様で、午後2時から菊水公園での行事を急遽屋内に変更しました。地域の子どもを含めて沢山の子どもたちが、輪投げ、綿あめ、的当て、バルーン、パットゴルフなどで楽しく遊びました。

午後5時半からは、しらぎく荘の親子と職員や関係者、それに地域の民生委員や町内会の代表などが一堂に集まり懇親会を行いました。

懇親会では、オカリナ連盟白石支部の皆さんのトリオ演奏から始まりました。「♪手のひらを太陽に」「♪浜辺の歌」「♪見上げてご覧夜の星を」など知っている歌ばかりなので、皆楽しく聞き入っていました。

二番手に竹内ひろしさんによるマジックショーが行われました。とてもユニークなマジックで、仕掛けや種が丸見えになっ



恩田施設長



上田母子連会長



真鍋町内会長



て会場の笑いを誘いました。

最後にはビンゴ大会で盛り上がりました。全員に景品が渡り、来年の再会を約束して終了。



福まち研修会開催

7月23日(金)午後1時、菊水地区会館で福まち研修会を開催しました。「地域における関係団体との連携について～住んでいて良かったと思える菊水のために～」をテーマに白石区社協の佐藤事務局次長が講演を行い、民生委員、福まちの委員、町内会関係者など50名が参加しました。



「民生委員、福まち、町内会がそれぞれの活動の重なる部分を多くしていき、協力し合って高齢者等の日常生活支援にあたる必要がある」との発言や、他地区の事例などを交えての話に、参加者は



連携の重要性を再認識し、活動への決意を新たにしました。

高齢者の見守り活動を例にとっても、気にかけてくれる人の数が多くなればそれだけ安心は大きくなり、また活動者一人ひとりの負担も分散することができます。

菊水地区では、昨年度、南連合町内会で民生委員、福まち、町内会の連携のもと救急医療情報キッドの配布が行われており、今年度他の町内会にもその取り組みは広がりつつあります。今後、3者の連携がより強化され「住んでいて良かったと思える菊水のため」の取り組みが進められることが期待されます。(白石区社会協議会 武山職員)



トピックス

●菊寿園ラジオドラマ制作

菊水5条14丁目の軽費老人ホーム「札幌市菊寿園」では、今年創立40周年を記念して、老人ホームを舞台にしたラジオドラマを制作しています。同施設の多田施設長が脚本を書き、施設職員がドラマに出演します。

8月11日に中央区の地域FM局「ラジオカロスサッポロ」で放送する予定です。

「マニッシュ」執筆と題したオリジナルドラマで、主人公は産婦人科の力で東京の大学病院に上り詰めた前代主任の他人倫文を断罪し、職をわかれ、離婚後、故郷の札幌に帰郷する。ドラマの脚本は多田施設長が書き、施設職員が出演する。8月11日の放送は午後10時から10分間、ラジオカロスサッポロで放送する。

●お菓子工房ほほえみ稼働開始

菊水6条1丁目の「聴力障がい者共同作業所ほほえみ」に「ヤマト福祉財団」から100万円の寄付があったことは、よつクロ34号でお知らせしましたが、その寄付を活用して、この度菊水3条3丁目に廃業したそば店を借りて「お菓子工房」を開設しました。

4人の利用者が秋井職業指導員の指導のもと、クッキーやパウンドケーキを焼いて桑園に開設するカフェーに提供する計画です。

皆さんは、商売としてお菓子を作ることは初めての経験ですが、ボランティアさんを含め期待に胸を膨らませています。



よつクロエッセー

地域の皆さんこんにちは。菊水まちづくりセンター所長の渋井です。昨年4月にまちづくりセンターに赴任してから、早いもので1年3か月が過ぎようとしています。

私が今の住所（白石区）に住み始めたのは昭和30年代中頃で、小学校入学前でした。当時は今のように住宅は密集しておらず、お隣さんは4～50メートルも離れていましたし、周りは畑ばかりで夜になるとカエルの鳴き声しか聞こえませんでした。車は少なく街灯も無く、夜は空いっぱい星が見えていたのを記憶しています。

その頃私は、週に何日か母に手を牽かれ拍子木を叩いては「火の用心、マッチ一本火事のもと！」と夜回りしていたことを思い出します。たぶん当時はこんなことも地域活動として当番制で回ってきたんだと思います。また、町内でお葬式があると、母は割烹着を着て葬儀のお手伝いに行っていました。隣の家の調味料の貸し借りは日常茶飯事でしたし、当時はこうしたことが日常生活において当たり前の出来事だったのです。のどかと言えばのどかですが、自家用車も無くコンビニも無く、狭い地域で隣近所の人達と助け合わなければ生活できない時代だったのでしょうか。夜回りをしていた母は大変だったと思いますが、もしかすると、地域の決めごと、ルールに従って生活しなければ地域から「村八分」されるのを恐れていたのかも知れません。

今の時代は24時間コンビニが開いていて、隣の家に調味料を借りに行くことも無くなりましたし、街灯も整備され暗い夜道は少なくなり、また自家用車が普及し生活圏は狭い

菊水まちづくりセンター所長 渋井 敏紀

地域に限定されることは無くなりました。葬儀だって葬儀屋さんがやってくれる時代ですから。たぶん、「村八分」という言葉は死語になるでしょう。

行政サービスもきめ細かに行われ、ゴミ処理も除雪も行政がどんどんやってくれるようになりました。それはそれで便利になりましたが、そのことでだんだん地域の人達が力を合わせて頑張ってきた「地域力」みたいなものが薄れてきたように感じます。

現在は、経済の低成長期で税収も減少し、行政が住民のニーズを満たすことが難しくなっています。阪神淡路大震災を経験し、地域住民の力を借りなければきめ細かな救済ができなかった教訓から、地域における住民活動の重要性が高まっています。

ここ菊水地区では、子育てサロン、安全安心を守るための巡回やパトロール、高齢者を対象としたイベント企画など、町内会の役員が中心となり一生懸命頑張っています。

これからの時代は自分達のことは自分達で行っていくという認識と、地域の人達が手を取り合って「地域力」を高め「住民どうしの絆」を強めていくことが重要となります。

まちづくりセンターも地域の皆さんと力を合わせ、菊水地区の「地域力」が高まり、顔が見える人と人の絆づくりと、安全安心で住みよい地域づくりに努力してまいります。地域の皆様のご支援ご協力をお願いいたします。



編集後記

蒸し暑い夜には、上半身裸で団扇を片手に枝豆をつまみながらジョッキを傾げるなんてえ、ちょいと乙なもんだねえ。そういえば大相撲の名古屋場所テレビ中継が中止になったてえじゃあないか。いってえどうしたとゆうんだ。べらんめえ、こちとら生まれてこの方、ラジオからテレビ

に替わってもずっとファンでい続けてきたんでえ。相撲協会はこんなファンの気持ちにどう応えて行くのだろう、

よつクロの編集に携わってから満3年が過ぎた。永くなくても、相撲協会のようなマンネリズムに落ち込まないようにしなきゃあ。（枝元編集員）